

# 給水車派遣想定し情報訓練

日水協兵庫県支部

## 尼崎浄水場で応急給水訓練も

参加。久下均・尼崎市公営企業局水道部長が「平成30年7月豪雨被災地への応急給水応援（倉敷市真備町等）」と題し、支部事務局を代表して応援協力に感謝を述べ、派遣職員との情報連絡や住民とのリスクコミュニケーション強化、近隣市町との水道システム情報の相互理解などの必要性を指摘した。

続いて、参加者は6班に分かれ、地震や豪雨などの提示条件に基づく被害想定で、給水車派遣計画作成の訓練を実施。本番さながらに活発に意見交換し、各班から「訓練などを通じ、連絡管の周知なども必要」「被災時に医療機関に必要な給水車台数の事前把握を」「応援要請書を明確に」「情報不足を踏まえた見切り発車も」などの意見が出された。

応急給水実務訓練（昨年10月30日、阪神水道企業団尼崎浄水場内）には、県内26水道事業体の関係者ら約80人が参加。参加者は6班に分かれ、3班は給水装置操作・給水車運転・小型浄水装置「テモ」などを順次行い、残る3班は尼崎浄水場を視察した。

給水装置操作では、尼崎浄水場内の応急給水施設から給水車へ充水。給水車運転では、他事業体の給水車の性能などを確認し、浄水場内を巡回した。小型浄水装置「テモ」は▽緊急用浄水装置「アークアレスキュー」（清水合金製作所）▽小規模分散型RO膜ろ過システム「メサリオ」（三相電機）▽逆浸透膜浄水システム「クリスタルヴァレー」（ニューメディア・テック）の実演などを見学した。

日本水道協会兵庫県支部は、平成30年度危機管理訓練（応急給水実務訓練・情報伝達検討会）を実施した。「兵庫県水道災害相互応援に係る協定」、同県支部技術連携に基づき、平成25年度から毎年実施している。

情報伝達検討会（1月31日、兵庫県中央労働センター）には、県内35事業体の関係者ら約70人が



小型浄水装置の製品紹介や実演



浄水場内の応急給水装置から給水車へ充水